TEPCO

ホームページ「尾瀬と東京電力」

http://www.tepco.co.jp/oze/

東京電力ホールディングス株式会社
リニューアブルパワー・カンパニー
水利・尾瀬グループ
〒100-8560　東京都千代田区内幸町1丁目1番3号
電話:（03）-6373-1111（代表）

VEGETABLE OIL INK

OZE

みんなの尾瀬をみんなでまもる
このパンフレットは尾瀬の木道をリサイクルしています。

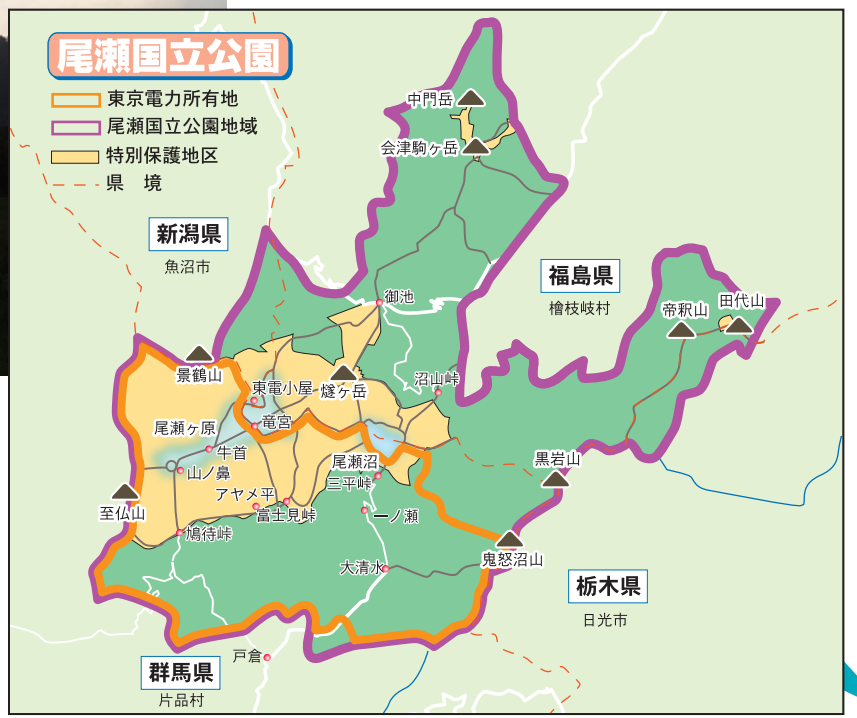
本書の内容を本来の目的以外に使用することや当社の許可なくして複製・転載することを禁じます。
All Rights Reserved ©2016 Tokyo Electric Power Company,INC

2016.06

尾瀬と東京電力

尾瀬と東京電力

＊ラムサール条約:国際的に重要な湿地を保護するための条約。
168ヵ国が締約しており、日本からも釧路湿原や琵琶湖、尾瀬など50箇所が登録されています。（データは2015年6月時点）
＊日本の自然公園制度:日本は地域制公園制度（国や地方自治体が土地の所有権･管理権を取得することなく、貴重な自然があるエリアを自然公園に指定し、一定の行為を規制することができる制度）をとっており、日本の国立公園の約1/4は私有地です。



雄大かつ繊細、神秘的な自然が残ることで知られる尾瀬。国立公園ならびに特別天然記念物に指定される日本の宝であると同時に、ラムサール条約に登録された世界の宝でもあります。

このような、日本が誇る「尾瀬」と東京電力に、どのような関係があるのか、不思議に思われる方も多いかも知れませんが、実は、東京電力は尾瀬国立公園特別保護地区の約７割、全体の約４割を所有しているのです。東京電力は尾瀬の土地所有者として、長年誇りと責任を持って自然保護に取り組んでいます。

尾瀬と東京電力の歴史

明治から大正にかけての時代は、人々の暮らしに電気が入り始めた頃で、その需要は急速に高まっていました。そのため、当時発電の中心であった水力発電所の建設をすすめることは、国をあげての大きな課題でした。そこで、大正時代に、当時の電力会社が、尾瀬の豊富な水を発電に活かそうと、土地と水利権（水を利用する権利）を取得し、昭和26年（1951年）、東京電力設立時に引き継がれたのです。

多くのハイカーでにぎわう尾瀬（昭和30年代）

木道を降りて湿原を歩くハイカー（昭和30年代）

ミズバショウと池塘

昭和30年代半ばまでは、尾瀬に集まるのは、高山植物の研究者や学生が中心だったそうです。それが昭和30年代後半になり、人々の生活にも余裕がではじめると、大勢のハイカーが尾瀬に押し寄せるようになりました。NHKラジオで「夏の思い出」が放送され、大ヒットしたことも大きなきっかけとなったようです。しかし、当時はまだ木道や公衆トイレなどの設備が整っておらず、尾瀬の美しさにひかれてやってくるハイカーの数が増えるにつれて、尾瀬の自然は荒廃していきました。東京電力は、その頃から尾瀬の自然保護に力を注ぐようになったのです。

COLUMN 1 「水力発電の今昔」

川や湖の水を利用して電気を起こす水力発電。その歴史は長く、日本で初めての水力発電所が建設されたのは、明治25年（1892年）のことでした。

水の豊かな我が国では、水力発電が発電方法の主力となり、東京電力設立時の昭和26年（1951年）の記録によると、水力発電と火力発電の比は8:2となっています。

現在では、水力発電の比率は小さくなっていますが、CO_2を排出しないクリーンな発電方法であり、資源に乏しい我が国では貴重な純国産のエネルギーであることから、重要な発電方法と位置づけられています。

尾瀬ヶ原における発電計画は無くなりましたが、現在も尾瀬沼の水の一部を利用して発電を行っています。もちろん、沼周辺の環境に影響を与えないよう、急激な水位変動をきたさない運用を行うとともに、継続的に環境調査を実施して、環境に影響のないことを確認しながら発電しています。

尾瀬沼と燧ヶ岳

COLUMN 2 「東電小屋」

尾瀬ヶ原を一望できる場所に位置することから、ハイカーの方々に人気のある東電小屋。もともとは、昭和の初めに関東水電という当時の電力会社が、降水量調査のために建てたもので、当時は「水電小屋」と呼ばれていました。その後東京電力の前身である東京電燈に引き継がれ、この時から「東電小屋」と呼ばれるようになったのです。

現在の東電小屋

昔の東電小屋（昭和2年建設）

東京電力の自然保護活動

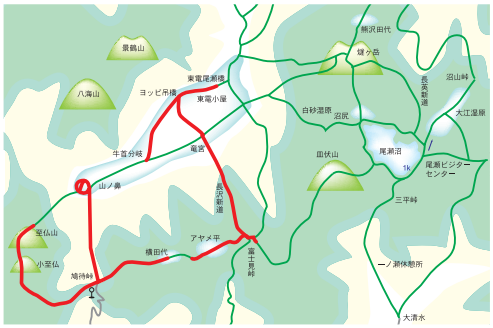
ニッコウキスゲと至仏山

尾瀬の美しさは国民的財産。東京電力はそう考えて、土地所有者として長年尾瀬をまもる様々な取り組みを行っています。これからその取り組みについて、尾瀬の美しさを象徴する「緑」「水」「空気」をキーワードとしてご紹介します。

木道を敷いています

尾瀬の自然をまもるためには人が立ち入らないことが一番かもしれません。しかし、それでは尾瀬の自然にふれることはできませんし、その美しい自然をまもることの大切さを感じることもできません。そこで、自然に与える影響を最小限に抑えながら、自然とふれあうことができるよう、尾瀬には木道が敷かれているのです。木道は、山間部を含めて尾瀬のほぼ全域をカバーしており、総延長約65kmに及びます。

東京電力では、群馬県の所有地内を中心に、約20kmの木道を敷設、維持管理しています。材料には、折れにくく水に強い国産のカラマツ材を使用していますが、10年前後で架け替えが必要となるため、毎年計画的に整備しています。



東京電力の木道管理区間(赤字)

木道の架替作業

荒廃した湿原の回復作業をしています

標高1,969メートル、360度の大パノラマが広がるアヤメ平は、かつて「天上の楽園」とまで讃えられた美しい湿原で、昭和30年代の尾瀬ブームの時には、大勢のハイカーがおしかけました。その結果、湿原植物が踏み荒らされ、湿原を形成する泥炭層（動植物の枯死体が腐ることなく堆積したもの。尾瀬では１年に１mmしか堆積しないと言われている。）がむき出しになり、あっという間に約１haの湿原が裸地化してしまったのです。

東京電力では、昭和39年（1964年）から、木道を設置して歩くルートを限定し、荒廃地の拡大防止に努めるとともに、昭和44年（1969年）からは積極的な湿原回復作業にのりだしました。荒廃した約１haのうち、0.9haについてほぼ緑は回復しましたが、今後も注意深く見守り、回復作業を継続していきます。

荒廃したアヤメ平（昭和30年代）

現在のアヤメ平

①＜ミタケスゲ種子採取＞
尾瀬全域の湿原に分布し、乾燥した場所でも良く成長するミタケスゲ。こういった植物が戻ってくると、徐々に湿原に分布する様々な植物が繁殖できるようになる。

②＜土留め区画設置＞
ミタケスゲの種子が雨などで流失しないよう、板を設置する。水はけを考慮し、穴があけられている。

③＜ミタケスゲ種まき作業＞
採取したミタケスゲの種子をまく。

④＜わらごも敷き＞
まいた種子が風に飛ばされたり、流されたりしないよう、わらごもで覆う。

種子落としマットを敷いています

尾瀬には、固有の珍しい植物が数多く生育しています。しかし近年、尾瀬の外から持ち込まれた植物（外来種）が増え、尾瀬に元来生育していた植物（在来種）が追いやられてしまうおそれが出てきました。

そのため、靴についてきた植物の種子が尾瀬に持ち込まれることを防ぐため、東京電力では平成２年（1990年）から尾瀬の群馬県側の入山口（鳩待峠・富士見峠・一ノ瀬）に種子落としマットを敷いています。

種子落としマット

種子落としマットの上で、靴についた泥をしっかり落としてから入山

COLUMN 3 「尾瀬の木道ペーパー」

尾瀬の風景に欠かすことのできない木道。折れにくく水に強いカラマツを使っているとはいえ、厳しい自然環境にさらされ、また、多くの方が通行されるため、10年前後で架け替える必要があります。

これまで、役目を終えた木道廃材は、尾瀬から搬出した後、産業廃棄物として処分していましたが、尾瀬の自然をまもっていた木道のライフサイクルを少しでも長くしたいと考え、これを紙の原料として利用するようになりました。この「尾瀬の木道ペーパー」は、当社パンフレットなどに活用しています。

COLUMN 4 「ワイド木道」

尾瀬の大清水湿原は、小さいながらも水芭蕉や紅葉が美しく、駐車場からすぐという便利さもあって、シーズンには多くのハイカーが訪れる場所となっています。東京電力は、この湿原に全長1,343mにわたって木道を敷いていますが、平成12年（2000年）5月、傾斜の少ない平坦地の木道336mを車いすが通れる「ワイド木道」に改修（同年秋さらに156m延長）、あわせて公衆トイレの改修や、専用の駐車スペースの確保も行いました。

また、介助が必要な方は、大清水休憩所までお申し出頂ければ、大清水湿原の自然を解説しながら、東京電力スタッフがご案内いたします。

水をまもるために

浄化槽を完備した公衆トイレを設置しています

尾瀬を訪れる人は誰も、その水の豊かさと清らかさに強い感動を覚えることでしょう。しかし、尾瀬には年間数十万ものハイカーが訪れるため、雑排水による水質の悪化が心配されることになります。

東京電力では、尾瀬に公衆トイレを7ヶ所設置してご利用いただいていますが、これらのトイレには、自然の川に劣らない水質まで浄化できる、高機能の浄化槽が設置されています。

また、東京電力グループ会社・東京パワーテクノロジーが運営する山小屋（鳩待山荘・至仏山荘・東電小屋・元湯山荘・尾瀬沼山荘）にはウォッシュレットトイレを導入しています。この背景には、トイレットペーパーの使用量を削減し、浄化槽の負荷を低減し、きれいな水質に浄化できるようにするためです。

富士見峠に設置した浄化槽

富士見峠公衆トイレ

空気をまもるために

太陽光発電に取り組んでいます

東京電力は、環境に優しい新エネルギーの開発を進めており、尾瀬においても、東電小屋、富士見峠公衆トイレの２ケ所に太陽光発電を導入し、CO_2排出の少ない発電につとめています。

東電小屋で使用される電気の
約2割をまかなう太陽光発電

太陽光の発電電力を表示するパネル

空気の熱でお湯を沸かすエコキュートを導入しています

至仏山荘に導入されたエコキュートの
ヒートポンプユニット
（貯湯タンクユニットは建物内に設置）

尾瀬ケ原の入り口、山の鼻にある至仏山荘では、空気の熱でお湯を沸かす給湯機エコキュートを導入しています。

エコキュートは、従来の燃焼式給湯器に比べて大幅にCO_2排出量を削減することができます。

尾瀬に親しんでいただくために

東京電力はこれまで、尾瀬をまもる「縁の下の力持ち」のような地道な保護活動に取り組んできました。今後もそういった地道な活動は続けていきますが、これからは「みんなの尾瀬をみんなでまもる」時代。より多くの方々に、尾瀬の美しさにふれ、自然のすばらしさ、大切さを感じていただければと考え、尾瀬に親しんでいただくための取り組みも行っています。

環境教育支援活動

長年、環境・エネルギー教育支援活動の場として尾瀬に親しんで頂くお手伝いをしています。

学校にお伺いしてご説明する「出前授業」や尾瀬の散策に東京電力スタッフが同行し、尾瀬の自然やその保護活動に関する解説をしています。

自然解説

出前授業

「尾瀬ネイチャーセンター」

尾瀬の群馬県側の麓、戸倉にある尾瀬ぷらり館内に「尾瀬ネイチャーセンター」を開設しています。ここでは、尾瀬・戸倉に生息、生育する動植物をはじめ、尾瀬と東京電力の関わりや尾瀬の成り立ちなどを展示し、スタッフが分かりやすく解説しています。

その他、季節ごとの見どころなどを紹介する「スライドショー」も実施しており、気軽に参加することができます。尾瀬に行く前、行った後にぜひお立ち寄りください。

尾瀬ぷらり館

尾瀬ネイチャーセンター

COLUMN 5 「ゴミ持ち帰り運動」

今ではすっかり定着した感のある「ゴミ持ち帰り」ですが、ほんの数十年前までは、ゴミは近くのゴミ箱へ、というのが当然の考え方でした。昭和40年代半ばには、尾瀬の群馬県側だけでも数百ものゴミ箱が置かれており、ゴミ箱に捨てられたゴミを片づけるだけでも大変な作業でした。ゴミと格闘する日が続く中で思いついたのが、ゴミ箱を撤去するという全く逆の発想でした。昭和47年（1972年）、東京電力と関係会社の尾瀬林業（現:東京パワーテクノロジー）のこの提案が認められ、尾瀬のゴミ箱は撤去されました。これが「ゴミ持ち帰り運動」の始まりであり、このことも尾瀬が「日本における自然保護活動発祥の地」と呼ばれる理由の一つとなっているのです。

ハイカーの出すゴミであふれたゴミ箱

水源の森・尾瀬戸倉の森

尾瀬戸倉の森は、尾瀬に隣接する広大な森林で、利根川最上流域の水源の森として、また、尾瀬の自然をまもる緩衝地帯として重要な役割を担っています。戦後復興期には、首都圏の需要に対応して木材が盛んに伐り出され、その跡には主に生育の早いカラマツが植林されました。昭和40年（1965年）以降、東京電力は、この尾瀬戸倉の森を下流の水力発電所の水源かん養林として大切に管理・保育してきましたが、一部成長の良くないカラマツ林を本来の豊かな広葉樹林に戻し、育ててきました。

平成21年（2009年）8月に「森林のCO2吸収・生物多様性認定」（フォレストック認定）、平成22年（2010年）2月には、国際的な森林認証制度FSCも取得しました。こうした外部機関のアドバイスをいただきながら、この森をより豊かな水源かん養林として管理していきたいと考えています。

現在、当社が管理する木道の一部には、FSC認証のカラマツ材を使用し、焼印がついています。

東京電力と尾瀬保護財団

尾瀬の自然をまもるために、これまで国や自治体、土地所有者である東京電力、山小屋組合、自然保護団体などが、それぞれの立場で様々な活動を行ってきました。そこで、関係者が同じテーブルにつき、認識を一つにして対策を話し合い、より効果的に自然保護を進めるため、平成７年（1995年）８月、尾瀬保護財団が設立されました。ハイカーの皆さんに尾瀬の適正な利用方法を呼びかけたり、ビジターセンター等の施設を運営するなど、その活動は多岐にわたります。

東京電力も、土地所有者として財団に参加しています。今後とも、財団と協調しながら、より充実した保護活動を展開していきたいと考えています。

尾瀬サミット2015

活発な意見交換が行われました

尾瀬入山にあたって

繊細で優しい風景が特徴ではありますが、尾瀬は2,000メートル級の山々に囲まれた山岳地帯です。尾瀬の自然をまもるため、また、ご自身の安全を確保するため、入山にあたってのルールを確認しておきましょう。

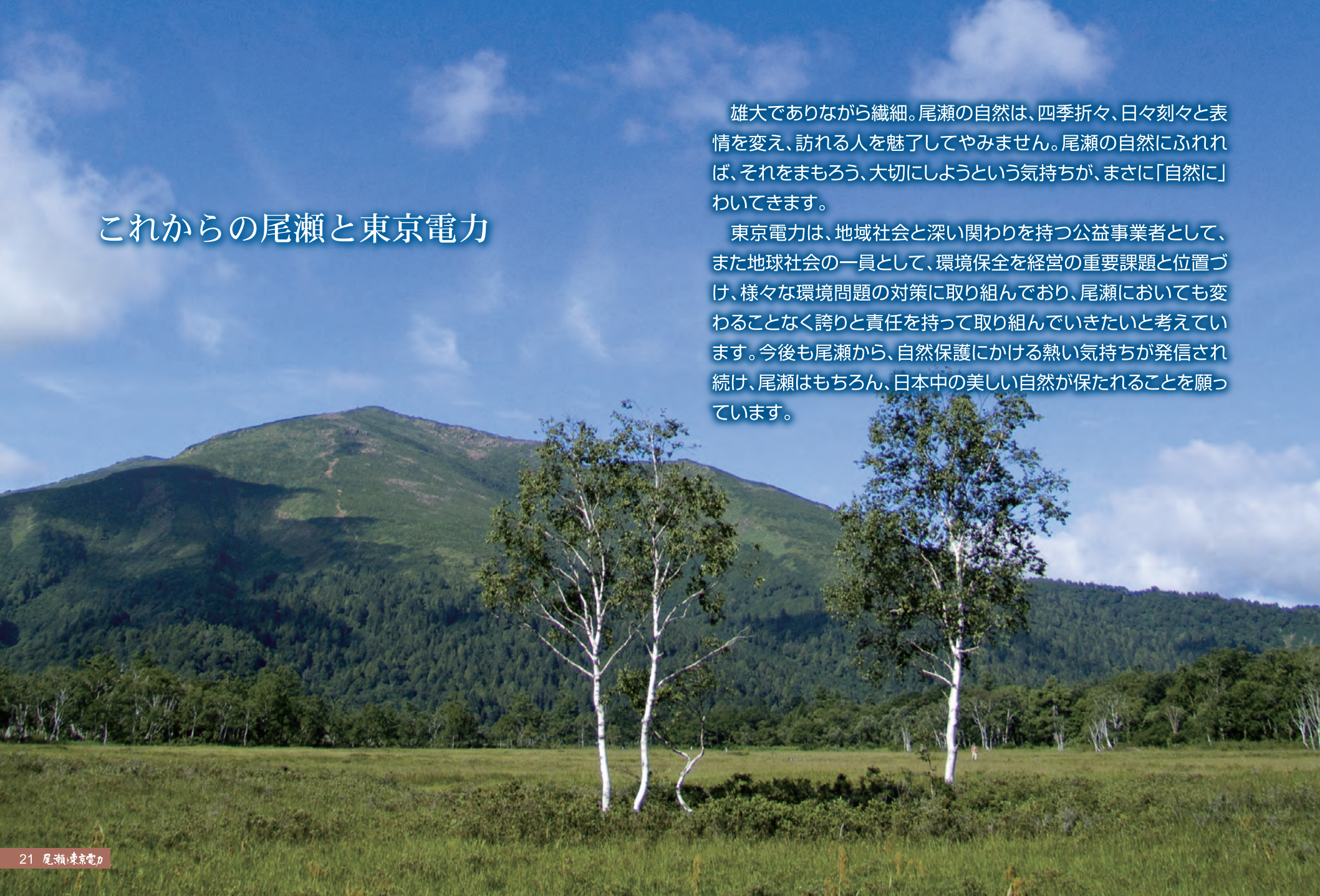
- 尾瀬は山岳地帯ですので、ふさわしい準備をして入山して下さい。特に靴や服装、雨具類には気を配りましょう。
- 時間的･体力的に余裕を持った行程を組みましょう。
- 木道は滑りやすいので、気をつけて歩きましょう。
- 倒木、落石など周囲の状況に気をつけて下さい。
- ツキノワグマに注意して下さい。

自然の中では、ご自身で安全を確保し、楽しみましょう。

●尾瀬でのルール●

- ゴミは必ず持ち帰りましょう。
- 湿原には踏み込まないようにしましょう。
- 動植物は持ち込まない･持ち帰らないようにしましょう。
- 靴底についた外来植物の種子を落としてから入山しましょう。
- 山小屋は予約制、石けん･シャンプーの使用は自粛しましょう。

小さな気遣いで、尾瀬の繊細な自然をまもりましょう。



これからの尾瀬と東京電力

雄大でありながら繊細。尾瀬の自然は、四季折々、日々刻々と表情を変え、訪れる人を魅了してやみません。尾瀬の自然にふれれば、それをまもろう、大切にしようという気持ちが、まさに「自然に」わいてきます。

東京電力は、地域社会と深い関わりを持つ公益事業者として、また地球社会の一員として、環境保全を経営の重要課題と位置づけ、様々な環境問題の対策に取り組んでおり、尾瀬においても変わることなく誇りと責任を持って取り組んでいきたいと考えています。今後も尾瀬から、自然保護にかける熱い気持ちが発信され続け、尾瀬はもちろん、日本中の美しい自然が保たれることを願っています。